

なぜTPP参加など“論外”なのか

～普通の人々が普通に暮らせる国づくりのために～

京都大学大学院 藤井聡

1. 「TPPなど論外」であることの論証方法

①合理的論証 メリット>デメリット の時の合理的判断

「ちょっと便利かも、でも大怪我するバス → 誰も乗らない」

「賛成派が正しい時になくすのは成長だけ、

私たちが正しい時になくすのは産業と国のかたち全て」

②手続き的論証 手続き的に無理

③倫理的論証 現政権の意図の問題 オバマ大統領の選挙対策

④経緯的論証 郵政民営化, BSE, 医療崩壊, 国民皆保険崩壊

... それが大問題だった、でもそれが全て×に!

>メリット 500万円で2700円 (対米輸出GDPで2%だけ)

・そもそも**円高**では無理

・共存共栄できる**パートナーはいない** リーマンショック後 米欧中いずれも厳しい

>デメリット

・**主権喪失**

国家主権の問題 国家経済政策が×に (貨幣, 財政, ×関税, ×各種規制) リスト

・**格差社会を拡大** (そもそもグローバル化は, 弱肉強食, 中小零細は潰れる)

大企業-中小零細 資本家-非資本家 都市-地方

・**被災地を見捨てる** (地方, 中小零細, 非資本家)

・**デフレ加速化** 供給多すぎ → 海外の企業が増える!

・**普通の人々の暮らしが苦しくなる**

貧乏になるのに, 保険に入れなくなるかも, 薬だけ高い, 危ないもの食べる!

(議会は政府に「医療, 保険, 食を全て解放せよと圧力」

カーク代表は実際「公的保険の民営化, 牛肉BSE規制撤廃, 自動車環境規制」

2. にも関わらず, TPPが推進されている理由

①現政権→普天間問題への穴埋め (「交通事故で人の家の塀潰した. お歳暮」)

②米国・日本のグローバル輸出企業→利益増進

③学者→経済理論ではマーケットに規制が少ない方が効率化していく. 国境は最大の不効率.

④マスメディア→ 学者・政権・スポンサーからの影響 + 勉強不足

3. 今後

・最後の批准の時でも離脱可能. しかし, 進めば進むほど, 国債関係は棄損.

・なぜ離脱可能か①TPPと安全保障は全く別 (塀潰したら保証必要. お歳暮無意味)

②そもそも米政権にとってTPP優先順位は高くない (高順位=欧州・中国)

③米国は**民主主義**を重視せざるを得ない (例エジプトのムバラクを見捨てた)

・だから, ①「TPPの反対世論」をしっかりとつくり, 政治家の先生方を中心に, TPP不参加となるような状況をつくっていく (米国からの拒否/国会での批准拒否を目指す)

②その一方で, 被災地復興・巨大地震対策の列島強靱化でデフレ脱却→**経済成長**

今は, 外に打って出るのでなく「普通の人々が普通に暮らせるため」に内を固めるべき時.

以上